

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

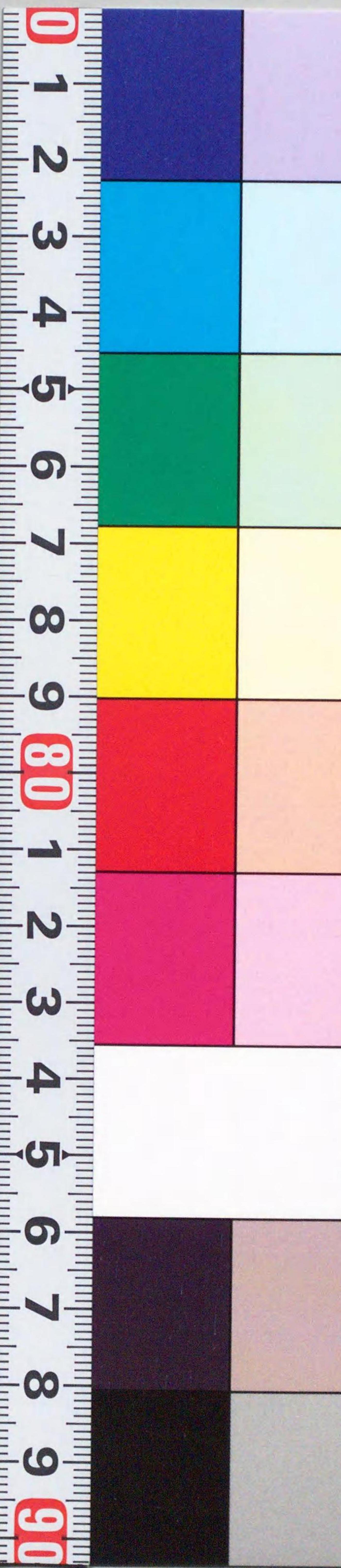
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



昭和九年三月

9
A
1353
9 6 23

Y994
J5922

全國學校看護婦に關する調査

文部大臣官房體育課

立憲民政務調査
昭9
A
1353

Y999
J5922

全國學校看護婦に關する調査

(昭和八年四月現在)

文部大臣官房體育課

本邦學校衛生は、近年種々の方面に長足の進歩發達を見るに至れり、就中學校看護婦の普及並に其の業績は學校齒科醫の設置と共に我國の教育界近時の異例的發達と稱すべく、從來學校醫を中心として調查、劃策せられたる學校衛生諸事業は學校看護婦の忠實なる協助に依りて着々として其の實績を現すに至り一般學童保健の向上は勿論、虛弱兒童の體質改善、疾病異常の處置、衛生訓練の實施を始め、學校給食實施上重要な役割を演じ、其の他の學校衛生の全般に亘つて實際的效果を擧ぐるに至つたことは全く學校看護婦普及の結果と云はなければならぬ。

(一)



而して學校看護婦の設置は學校衛生に關する社會的要要求の程度に應じて、都市を中心として普及して來たのは素より當然のことにして其の設置件數の約半數に及ぶ。既に大阪市の如きは數年前より一人一校を原則として各學校に專屬せしめ、全市に二百三十餘名の學校看護婦を有するを始めとし、東京市の如きも昭和七年十月大東京の實現と同時に一躍三百三十餘名の多數に増員せり。

札幌、函館、旭川、室蘭、青森、盛岡、石卷、山形、若松、福島、郡山、水戸、宇都宮、大宮、川越、川口、銚子、千葉、八王子、横濱、平塚、川崎、新潟、長岡、富山、金澤、甲府、長野、岐阜、大垣、濱松、岡崎、宇治山田、大津、京都、大阪、堺、神戸、尼崎、明石、姫路、西宮、奈良、和歌山、鳥取、米子、松江、岡山、廣島、吳、福山、山口、宇部、萩、高松、松山、今治、宇和島、高知、福岡、久留米、小倉、若松、大牟田、八幡、戸畠、直方、飯塚、佐賀、佐世保、熊本、大分、別府、延岡、宮崎、鹿兒島、那霸、首里の七十八都市に於ては何れも各學校に夫々一校一人の學校看護婦を有し、之れを歐米の諸都市のそれに比較するも決して劣らない施設である。東京を始め小樽、釧路、仙臺、秋田、鶴岡、前橋、桐生、横須賀、福井、高田、靜岡、清水、沼津、豊橋、名古屋、津、尾道、門司、徳島、四日市、都城、長崎の二十三市に於ては二校一人又は三校一人の學校看護婦を有し全々設置を見ざる都市は極めて少數に過ぎない狀態である。

學校看護婦を設置せる都市にては夫々地方の實情に應じて市費又は其の他の經費を以て設置し、其

他の市に準する町村に於ても漸次其の設置は普及し都市に於ける設置件數と同數を占め、福岡、佐賀長崎等九州の各縣に於ての小學校數の二分の一乃至三分の一に設置せらる程度に普及し、都鄙を通じて極度の財政緊縮に禍せられ、教育費の上にも年々削減を餘儀なくせられつゝある現況に於て獨り學校看護婦のみ都市を中心として廣く全國に普及せんとするの趨勢に在るは、其の業績の大なるを裏書するもので誠に喜ぶべき現象と云ふべきである。

二

茲に本調査と昭和六年四月一日現在の調査とに於ける全國學校看護婦設置狀況を比較するに、前項に述べたる如く世界的經濟不況は延て教育費にも極端なる節約の影響ありしにも拘らず、法令に何等の根據なく制度上の支援なき學校看護婦事業の上には殆んど影響なく年々其の設置普及を見るは全く本施設の學童養護に於ける實績の顯著なるの證左に外ならざるべく、尤も數年前一時設置件數並に學校看護婦數に於て何れも増加の比率尠く經費總額に於ては寧ろ幾分減少を餘儀なくせられたのであるが幸に近年の調査に於ては之等の傾向は著しく緩和せられ設置件數は六年度二・〇三二件のもの本年度に於ては二・四〇九件にして三七七件の増加を示し、學校看護婦の人員數は六年度一・八二四名のもの本年度は二・三九八名にして五七四名の實人員を増加し、特に總經費に於て六年度七拾四萬九千四

十三圓のもの本年度九十萬四千二百三十四圓を算し、二ヶ年に於て三萬千三百八圓の増加を示せり。

學校看護婦の數は二、三縣に於ては餘り増加を見ざる地方ありと雖も多數の府縣に於ては少くも數名の増加を見、就中東京、愛知、兵庫、廣島等の府縣は十名乃至百名以上の増加を見たるが如き頗る注目に値すべきである。

又從來は小學校並に幼稚園に設置せらるゝのを原則としたのであるが近時の傾向は女子中等學校を始め男子中等學校にも及ばんとし、即ち東京府に於ては二十校の中等學校（中學校六、高等女學校一四）に各一名宛の學校看護婦を専屬せしめ、大阪府にては十八校（師範一、中學校一、高等女學校一六）長崎縣にては十五校（中學校五、高等女學校一〇）に學校看護婦を設置し、其の他愛媛、廣島、德島、香川、兵庫、新潟、福岡等の諸縣にも夫々數名設置せられ尙其の他の諸縣に於ても一校乃至二三校の中等學校に設置せられて居る現況である。全國に於て中等學校の設置件數は昭和六年度に於て男子中等學校三三件、女子中等學校八〇件、計一〇三件にして本調査にては男子中等學校三四件、女子中等學校九九件計一三三件にして三〇件の増加を見たのである。

三

次に學校看護婦の手當總額は前述の如く本調査に於て九十萬四千二百三十四圓、之れを總人員二十四

○九人に配當し、更に十二ヶ月分に分ちて平均月手當を見るに三十五圓餘にして六年度のものと大差なく、昭和四年度四十圓に比し幾分か減少せるが如きも一面平均月額を減じて増員したる地方もあり新採用者俸給の減少は一般社會の時勢なれば蓋し止むを得ない事柄であらう。而して平均月手當三十圓乃至四十圓は婦人職業としては教職員に比し幾分劣るも他の職業婦人の待遇に比し敢て遜色なく、且つこの平均は月手當五一〇圓位の兼務者、又は二十圓前後の農村に於けるものも平均したのである。沖繩縣にては平均六圓の月手當で、之は女教員に學校看護婦を兼務せしめ特別手當として支給せるものである。

四

經費の出所は以前は市町村等自治體の支出にかかるもの極めて少く、特志家の寄附、公共團體の派遣乃至保護者會等の支辨に依つたものが多數を占めて居つたのであるが、最近に於ては市町村の支辨にかかるもの大多數にて總設置件數の四分の三を占め其他のものは四分の一に過ぎないのである。是れ學校看護婦の事業たるや、學校衛生兒童養護の立場から見て廣義の教育事務として市町村等自治體の認むる所となつた證左である。世界に於ける學校看護婦の祖ミス・ヒューズがロンドンに於て一八九四年私設の學校看護婦協會を組織してより十年漸く一九〇四年に及んで始めてロンドン市廳に於て

二十名の學校看護婦を任命したるが如き東西發達の過程に同様の経路を踏める事實と照合し思ひ半ばに過ぎるものがある。

五

我國に於ける一般看護婦の教養は歐米のそれに比し著しく遜色があり、大多數は小學校卒業程度の學歴を有するに過ぎず、高女卒業程度以上のものは極めて稀有の事例に屬するのであるが、我が學校看護婦に於ては高等女學校卒業程度の學歴を有するもの總數二四六名で、總數約九分の一に相當し、この中には專門學校等高等程度の學歴を有するものも尠くない。又高小卒業程度は七一九名で總數の三分の一を占め、其の他一・三六四名の大半數は赤十字社出身醫科大學其他相當の看護婦學校に於て二ヶ年乃至三ヶ年看護學と同時に普通學を修めたもの、又は已に專檢に合格せるもの、或は女學校中途退學せるものを含み實力に於ては高女卒業と同程度若くはそれ以上の者も認められ、學校看護婦が學歴に於て實力及び一般的教養に於ても他の看護婦に一頭地を抜いて居るばかりでなく、度々講習會等に出席して修養、研究に努力しつゝあるは甚だ喜ぶべき事である。

六

現在學校看護婦資格としては看護婦免狀を有するものが多數を占むるのは勿論であるが、近時高女卒業生に一定の講習を施して學校看護婦として採用せるものに札幌、函館、旭川の諸市があり、女子師範學校生徒に長期の講習を施し女教員に兼務せしむるものに沖繩、大阪の府縣があり、其の何れが可なりやは遠かに論じ難きと雖も専門的の學問は到底短時間に修得し得られないものであるから、中等程度の一般的教養の上に二、三ヶ年の専門的學術及實技を修得し公衆看護婦として必要な諸般の修養を積んで後學校看護婦たることを吾々は理想とするものである。

七

抑々我國に於て學校看護婦は從來國として何等の規程がなく全く學校又は地方自治體の任意的設置に過ぎなかつたのであるが、昭和四年十月文部省に於ては、現に各地に設置せられ學校衛生上多大の效果を擧げて居る學校看護婦に對し、其の業務を適切に指導し職務の能率を一層向上せしめん爲めに學校看護の資格並に執務に關する要項を定め、文部省訓令第二十一號として公布されてより、全國的に職務の統一が期せらるゝに至つたのである。以來學校看護婦は他の教育法規とは異なるが少くも文部省法規の上に明記せられ教育上其の存在を認められてゐる。唯設置に關する規定がない爲めに身分の保證、公務員としての資格其の他に於て教育職員として認められないものである。

然れども文部省訓令に準據して各地に於て學校看護婦に關する規定を有する府縣は青森縣を始め二十二縣に及んで居る。

また學校看護婦會の組織ある地方、市を中心とするものは北海道、愛知、岐阜、東京、靜岡、大阪にして外に縣を統一したるものに廣島、秋田、山口、福岡、佐賀、群馬、沖繩の七地方あり何れも一年一回或はそれ以上例會を開催し、學校衛生上必要な研究發表並に意見の交換を行ひ、講習會、講演會等を開き、協力一致學校看護婦事業向上發展に力めて居る。

文部省に於ては已に數年前より本省主催の下に毎年一回學校看護婦講習會を開催し毎回五百名の參加者あり、尙昭和三年より帝國學校衛生會主催のもとに全國學校看護婦大會を開催し本年は第五回大會を三月東京に於て開催せり。

第一表 學校看護婦設置狀況 (昭和八年度)

道府縣	設置件數	人員	俸給	手當及其他	俸給及手當總額	平均月俸額
北海道	八六	八六	三二、七三九	二、六九七	三五、四三六	三五、八五
青森縣	一八	二〇	六、二二八	三	六、二三一	二五、九六
岩手縣	一九	一九	四、六九二	一	四、六九二	二七、五〇
宮城县	三九	二九	一一、八五六	六二五	一二、四八一	三五、八七
秋田縣	四三	三七	九、五〇一	一	九、五〇一	二八、〇二
福島縣	二四	四四	七、四〇六	二一〇	七、六一六	二四、四九
茨城縣	二四	二九〇一	二、九〇一	六六	二、九六七	二四、六八
栃木縣	一三	四、三九二	四、三九二	八七	四、四七九	三三、九三
群馬縣	九	三、七〇八	三、七〇八	一三五	三、八四三	三五、五八
埼玉縣	一三	五、三五九	五、三五九	一〇三	五、四六二	三五、〇一
千葉縣	一七	六、〇四八	六、〇四八	五一	六、〇九九	二九、九〇
東京都	一四	八、一〇〇	八、一〇〇	八、一〇〇	八、一〇〇	四八、二一
神奈川縣	三三六	一四八、二五四	一四八、二五四	九、一〇二	一五七、三五六	四一、〇五
新潟縣	二六	九、八八六	九、八八六	四七八	八、五五四	二七、四二
富山縣	二二	一、一二八	一、一二八	五七一	一七、四五七	三二、一九
石川縣	五二	九、八九一	九、八九一	四二九	一〇、九二五	四七、〇〇
福井縣	二六	八、〇七六	八、〇七六	三〇	一〇、九二五	三八、九〇
長野縣	二四	一六、八八六	一六、八八六	四〇	四、一一九	三六、八〇
岐阜縣	二四	九、八九八	九、八九八	三〇	三、五八八	二九、九〇
愛知縣	三一	一、〇、三三四	一、〇、三三四	五七一	四、一二四	四二、九六
三重縣	三八	一、三、一九六	一、三、一九六	一〇	一〇、七二七	三六、七八
滋賀縣	九〇	二四、七八四	二四、七八四	九一八	二五、七〇二	四二、九〇
奈良縣	八	四、九四八	四、九四八	一四五	五、〇九三	三八、七六
京都府	三九	九〇	四〇	三九三	三、六九二	四三、九五
兵庫縣	三一	三一	一〇	一〇	二五、七〇二	二八、六五
神戶市	八	二四	一〇	一〇	五、〇九三	三八、七六
福岡縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
大分縣	二四	三八	三八	一	二五、七〇二	二八、六五
宮崎縣	二四	三一	一〇	一〇	五、〇九三	三八、七六
鹿兒島縣	二四	一〇	一〇	一〇	三、六九二	四三、九五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
熊本縣	二四	二四	一〇	一〇	三、六九二	四三、九五
大分縣	二四	二四	一〇	一〇	二五、七〇二	二八、六五
宮崎縣	二四	二四	一〇	一〇	五、〇九三	三八、七六
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
長崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
佐賀縣	一〇	九〇	九〇	九一八	二五、七〇二	二八、六五
熊本縣	一〇	九〇	九〇	九一八	五、〇九三	三八、七六
宮崎縣	一〇	九〇	九〇	九一八	三、六九二	四三、九五
鹿兒島縣	一〇	九〇	九〇</td			

10

第二表 學校看護婦設置狀況累年比較

鹿兒島	沖	朝鮮	繩	五八	一五、四四四	八七八	一六、三二二	二三、四五
臺北	樺太	灣	島	五一	二、五八七	三七二	二、九五九	一
關東州	滿鐵附屬地	計		五九	二六、〇八四	八〇〇	二六、八八四	三八、六二
一三	一三	一三		四一	一、八七九	一四、三〇〇	一四、一八四	三二、七六
一三	一三	一三		四一	七、七八八	三九六	八、一八四	五二、四六
二三	二三	二三		四〇	一八、三四六	四八七	一八、八三三	三九、九二
二三	二三	二三		四〇	一六、〇一七	一〇四八	一七、〇六五	六一、八三
二三	二三	二三		四〇	八五二、〇四九	五二、一八五	九〇四、二三四	三五、一二
二、四〇九	二、三九八	二、三九八		四〇	一、〇四八	九〇四、二三四	八〇〇	大正十五年
二、四〇六六	二、一〇〇	二、一〇〇		四〇	一、〇四八	九〇四、二三四	二六、八八四	同十四年
昭和七年	七九八、六七三、〇〇	七九八、六七三、〇〇		四〇	一、〇四八	九〇四、二三四	二六、八八四	大正十五年
六年	三四、三二	三四、三二		四〇	一、〇四八	九〇四、二三四	二六、八八四	同十四年
五年	三四、四〇	三四、四〇		四〇	一、〇三二	九〇四、二三四	二六、八八四	大正十五年
四年	五六七	五六七		四〇	一、八八五	九〇四、二三四	二六、八八四	同十四年
三年	五六七二	五六七二		四〇	一、六一八	九〇四、二三四	二六、八八四	大正十五年
二年	四六四	四六四		四〇	一、四三八	九〇四、二三四	二六、八八四	同十四年
一年	三七八	三七八		四〇	一、一九九	九〇四、二三四	二六、八八四	大正十五年
				四〇	六九四、八二〇、〇〇	五七三、三九四、〇〇	三二、九〇	同十四年
				四〇	六九二、二五四、〇〇	四〇、三〇	四一、二〇	大正十五年
				四〇	一、八八五	四〇、三〇	四一、二〇	同十四年
				四〇	六九六	三二、九〇	三二、九〇	大正十五年
				四〇	五六七二	四〇、三〇	四一、二〇	同十四年
				四〇	四六四	三二、九〇	三二、九〇	大正十五年
				四〇	三七八	三二、九〇	三二、九〇	同十四年

